

始めよう! 私たちにできる身近なエコアクション

～新潟県内のNPO法人でも様々な環境活動を行っています～



五泉トゲソの会 (五泉市)

トゲソ類の生息地は、湧水地など豊かな水環境が残されている地域に限られます。近年著しく減少したトゲソ類(希少淡水魚)の保護、学校支援で川に汚れを出さないエコアクションの啓蒙、川での体験学習の支援などを行っています。

詳しくは <http://www.geocities.jp/gosentogeso/>
〒956-0862 新潟市秋葉区新町2-8-10-1 TEL&FAX: 0250-22-0271 (中村)



●トゲソの観察会 ●早出川清流スクール・水質調査 ●とげそ米の販売 など

地域循環ネットワーク (長岡市)

ゴミを減らして資源として利用していくことを目的とし、地域のものは地域で循環するしくみをつくるため、長岡市内を中心に、環境保全につながる啓蒙及び実践活動を行っています。

詳しくは <http://park16.wakwak.com/~jnet/>
〒950-0029 長岡市東蔵王2-1-10市民生活工房内
TEL: 0258-34-4450 FAX: 0258-34-3722



●給食残さ・わりばし・廃油リサイクル ●炭焼き工房 など



エコネット上越 (上越市)

持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境に配慮したエコ商品の常設展示(上越市委託事業)や環境講座の開催を通じ、グリーン購入・省エネルギーの啓蒙を推進しています。

詳しくは http://www15.plala.or.jp/eco_net/
●商品展示場 〒943-0821 上越市土橋1914-3上越市市民プラザ2F上越市環境情報センター内
TEL: 025-527-3616(内線316) FAX: 025-522-8241
●事務所 〒943-0823 上越市高土町1-9-7 TEL: 025-526-8466



●エコ商品展示 ●環境講座の開催 ●環境学習の支援 ●リユース食器の貸出 など

トキどき応援団 (佐渡市)

佐渡におけるトキとの共生を実現するために、トキや他の自然環境への理解を深める活動を行い、トキと共に暮らす島づくりを推進しています。

詳しくは <http://park18.wakwak.com/~tokidoki/>
〒952-0112 佐渡市新穂舟下13 TEL: 080-5023-8626(仲川)



●トキの餌場づくり ●学習会 ●探鳥会 など

※このほかにも、新潟県内で活動するNPO法人、市民団体、ボランティア団体のサーチ、イベント情報、ボランティア募集情報に関しては、「にいがたNPO情報ネット」を御覧ください。

<http://www.nponiigata.jp/>

Uターン情報誌

「新潟生活」と「新潟Uターン情報」をセットで無料送付しています。

新潟生活

- 新潟にUターンした先輩の体験談
- 新潟の豊かな暮らしや魅力的な仕事の紹介 など

新潟Uターン情報

- 新潟県内企業の紹介
- 就職活動の動向
- 就職ガイダンスのお知らせ など

送付をご希望の方は、新潟県県民生活課までお電話ください

新潟くらしのポータルサイト **niiGET** もご活用ください
ニイゲット <http://www.niiget.jp>

- 新潟トピックス(毎日更新中 土日祝除く)
新潟県内の社会・経済情報を見ることができます
- 合同企業説明会スケジュール
県内外で開催される合同企業説明会の日程が確認できます
- 教えて先輩!
新潟にUターンされた方々の体験を紹介します
- 新潟で夢にチャレンジ
無限の可能性のある新潟の魅力をさまざまな角度から紹介します

お申し込み・お問い合わせ

新潟県県民生活課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1
TEL025-280-5112(直通)



新潟生活

御希望の方に無料で郵送しています。

発行/新潟県県民生活課 〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1 TEL025-280-5112(直通)

目次

- 【教えて先輩!】自分の居やすい環境は自分で作る
粟島には魅力が沢山。20年先にも、その魅力を残していきたい
- 【特集】社会貢献のスタイル
始めよう! 私たちにできる身近なエコアクション

申込 無料 FREE

教えて先輩!
vol.17

自分の居やすい環境は自分で作る

Uターンしたきっかけ

一度、地元から出てみて、県外の大学へ進学しましたが、外から故郷を見つめることで地元の良さに気づくことができ、新潟に戻りたいと思うようになりました。新潟は豊かな自然に恵まれ、季節ごとに美味しい食べ物がすぐ近くにありすよ。それから、全国有数の農業県ですので、大学で専攻したことが活かしやすかったことも一因でした。今の職場では農業体験のイベントを手掛けているのですが、自分が感じている新潟の魅力が伝えられているのではないかと楽しく取り組むことができています。

地域の魅力

地元から離れて感じたことは、新潟は四季がはっきりしているということです。これは関東圏ではあまり実感できないのではない

でしょうか。当たり前のことかもしれませんが、海があって山があり、それぞれの旬の食べ物に出会える。そして、都市もあれば、里山もある。色々な切り口で魅力を語れる所だと思います。また、どこにいても人がやさしいと感じます。

若い人へのメッセージ

楽しいことは人から与えられるのではなく、自分で見つけたり、自分で作るものだと思います。あるいは、負のエネルギーを正のエネルギーに転換してみるのも、気持ちの持ち方次第で出来ることです。

「自分の居やすい環境は自分で作るもの」と言われたことがありました。挑戦する方には必ず周りのサポートがありますので、自分の居心地のいい場所を自分で作ってほしいですね。



今井幸子さん(29歳)

新潟県総合生活協同組合 営業推進部 企画広報課

地域 新潟市中央区

南魚沼市(旧塩沢町)出身。高校を卒業後、農業への関心から茨城の大学で生物機能を専攻、土壌の研究を重ねる。2005年新潟県総合生活協同組合に入協。現在、食育をテーマに、小学生と保護者向けの農業体験イベントを企画実施。大好きなフィールドで生産者と消費者をつなぐ。

教えて先輩!
vol.18

粟島には魅力が沢山。20年先にも、その魅力を残していきたい

粟島へ移住した理由

「緑のふるさと協力隊」という農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に1年間派遣するプログラムの候補先に粟島浦村を見つけ、新潟に佐渡以外の島があることを知りました。他市町村と合併せず、小さなコミュニティでの暮らしから地方自治の原点を学べると思い申し込みを決めました。協力隊は1年で終了するプログラムですが、島民の方々にとても良くしてもらい、その恩を返したいと、現在も島に残って活動しています。

仕事をする上で不安・心配だったこと

新しい土地で暮らすことに不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私の場合、島民の方々に喜ばせることに徹すれば、馴染めないことはないだろうと考えていました。「この

人は、今、どうすると喜んでくれるか」と考えながら人と接することは、非常に大切なことだと思います。

島に求められる仕事を自分が率先することで、地域の人たちにも「もっと島を良くしよう!」という思いになってもらえたらうれしいですね。

若い人へのメッセージ

「緑のふるさと協力隊」として滞在した1年の感謝の気持ちを形として残していきたいと思い、粟島に残っています。目的があれば、どこでも頑張れます。新潟はお米、魚等

の食が豊かな場所。休耕地での耕作や植栽等、手を加えることで得られる幸せがあります。新潟はその全てを体感できます。都市部では味わえない田舎での生活を体験してほしいですね。



西畑良俊さん(29歳)

粟島ドリームランド協議会事務局スタッフ

地域 粟島浦村

埼玉県出身。東京都内の大学を卒業後、福岡で介護用品のベッドメーカーの営業として2年間を過ごす。退職後、NGOの活動等に参加。食・環境問題に関わりたいと思い、昨年、若者の就村プロジェクト「緑のふるさと協力隊」に申し込み、現在、粟島に来て2年目。島内の環境保全や観光交流活動に日々奔走している。

社会貢献のスタイル

～未来へエコアクション～

近年、新聞や雑誌などでCSR(企業の社会的責任)という言葉をよく目にすると思います。

企業は利潤を追求するだけでなく、環境や人権などに配慮した活動を行い、社会に貢献すべきだという考え方が浸透しつつあります。

県内企業、団体におけるCSR活動への取組やエコを取り入れた活動をご紹介します。私たちにできる未来のためのエコアクション。その第一歩を考えてみませんか。



佐渡市 エコアイランド佐渡 でのCSR

●企業が果たす役割

青年会の奉仕活動で町内会のごみ収集を始めたのが当社のルーツです。当社はこれまで、家庭ごみの収集、浄化槽保守点検、清掃業務や空き缶リサイクルといった生活に身近な場所で、佐渡の環境保全を考え、その向上に取り組んできました。環境配慮への重要性が認識された社会において、また、過疎化、高齢化が進んだ地域社会において、企業は最大限の力を発揮することが求められていて、それを果たす責任があります。



●廃食油をバイオディーゼル燃料に

3年前から島内で回収した天ぷら油からバイオディーゼル燃料を製造しています。廃食油を1リットル1円で買い取りますが、回収量は年々増え続け、昨年度は島内で約4万4千リットルの油を回収。製造された燃料は、当社の作業車への使用はもちろんのこと、佐渡市の一部の公用車に使用するほか、一般販売も行い二酸化炭素の排出量を削減しています。ないものねだりをするのではなく、あるものをどう活かすかという取組が重要です。

●地域とともに

地域で回収した資源を地域で再生し、消費する。こうした活動は一人で取り組むには限界がありますが、企業と地域住民が一体となり協力し合うことで、よりよいものを作ることができます。企業も地域社会の一員です。この地域で安心して暮らし続けられ、そして、佐渡が夢の持てる島であってほしい。佐渡へ来て大自然に触れると、心が穏やかになります。人は心が癒されると、「人」のこと、「地球」のこと、「環境」のことを考えたくなくとも思いますよ。

アイマーク環境(株) 代表取締役社長
村山 由貴男さん

●どんな未来を目指すか

CSRといっても、企業の取組は様々です。当社は、本業で地域に役立つことが地方企業にとってのCSRではないかと考えます。昨年度、日本財団情報総合サイトでCSR大賞にノミネートされましたが、当社のCSRが特段優れているとは思っていません。CSRというのは、本来、企業として、人として守るべき当然の姿勢だと考えます。CSR活動それ自体が目的化することなく、どんな未来を目指すのか、将来にフォーカスし、実践し続ける企業でありたいです。

バイオディーゼル燃料は、諸外国も政策の一環として取り組んでいます。今後、日本の優れた環境技術を持って、他国で環境保護に取り組む。そんなことが当社の将来のミッションに加わるかもしれませんね。



新発田市 食の循環による まちづくり

●魔法の二重底バケツ

地球環境のために、自分たちに何ができるのかと考えた時に、ごみを減らしたい、そのためにはごみを再資源化したいと考えるようになりました。ごみの減量に役立つ二重底のバケツを用いて、生ごみを堆肥の原料として再資源化し土に還す運動を進めています。生ごみの資源化には水分を除去しなければなりません。このバケツを使えば、簡単にごみと水分を分けることができます。捨てればごみであっても、ひと手間かけるだけで立派な資源になり得るのです。

●活動の輪

14年前に10世帯から始まった活動ですが、この取組を理解してもらうには時間がかかりました。知人友人を訪ね、協力してほしいと地域を歩き回りました。また、新発田市の特産品であるアスパラガスをリサイクルした堆肥で作ってほしいと農家さんに働きかけました。活動の輪は少しずつ広がり、今では地域住民、行政と一体になった活動にまで広がり、現在、新発田市内の16の小中学校、2265世帯が参画しています。

NPO法人ユニー&ミーの会
佐藤恭子さん



おおしまや
大嶋美樹子さん



の。リサイクルやリユースは楽しみながらやると長続きします。ふろしきは色彩やデザインが多様で美意識も高められ、まさに楽しみながら実践できるエコです。

●ふろしきを通して伝えたいもの

専門店をオープンしてからは、ふろしきを売るだけでなく、使い方を広めていきたいと思うようになりました。ふろしきの出前講座を各地で開催しています。ふろしきを通じて日本の伝統文化も併せて伝えたいと思っています。さらに、ふろしきは持っているだけで会話のきっかけになるコミュニケーションツールです。今後、新潟の素材を活かした商品を開発し、新潟ふろしきストーリーを創っていきたいですね。



●目に見える循環型社会

この活動は、誰にでも手軽に取り組めるリサイクルです。食べ残しが地元野菜の堆肥の原料となり、再び自分たちの食卓を囲む。この目に見える循環型社会は、住民が理解しやすい仕組みです。身近にできる活動です。この活動を続けることで、可燃ごみも確実に減ってきています。ごみ処理には税金がかかりますから、この活動が税金を有効に使うお手伝いにもなっていると感じています。これからも学校での食育活動、町内会など地域に密着した活動を続け、住民の意識に働きかけていきたいですね。

